

エコアクション21

環境経営レポート

第51期(2024年度)

対象期間2023年10月1日～2024年9月30日

(作成日2024年12月23日)



ミヤマ精工株式会社



目次

1.組織概要

2対象範囲・実施体制

3.環境経営方針

4.環境経営目標

5.環境経営計画

6.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果及び次年度の取組

6-1 環境経営目標の実績・取組結果及び次年度の取組

6-2 環境経営計画の取組結果と評価及び次年度の取組

7.実績と次年度の目標

8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

9.教育・訓練実施結果及び概要

10.代表者による全体評価と見直し・指示

1.組織の概要

○会社名 ミヤマ精工株式会社

○代表者名 代表取締役社長 南澤 文明

○所在地 本社工場 長野県千曲市大字雨宮2358-1

○連絡先 TEL 026-272-8080 (代)

FAX 026-272-7878

○環境保全責任者及び担当者

最高責任者 代表取締役社長 南澤 文明

環境管理責任者 取締役総務部長 南澤 哲子

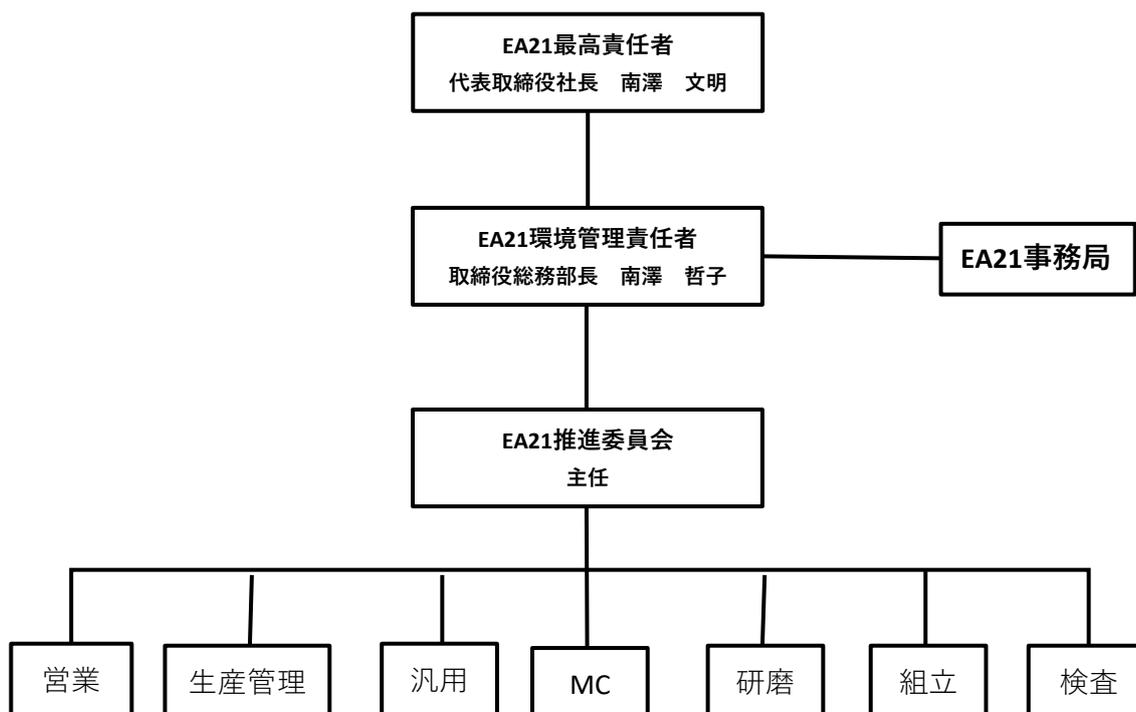
○事業内容 精密機械部品の加工、装置組み立て

○事業規模

(2024年9月30日現在)

	2023年度	2024年度
売上	123千万円	121千万円
生産数	20,867個	19,976個
従業員数	61人	56人
延べ床面積	3979.72m ²	3979.72m ²

2.対象範囲・実施体制



最高責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営システムの実施に必要な、人員、設備、費用を準備 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書・環境活動レポートを承認 ・問題点の発見、是正、予防処置の確認及び評価 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施及び運用管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票の承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制を従業員に周知 ・全従業員に対する教育・訓練の実施 ・環境外部コミュニケーションの窓口 ・問題点の発見、是正・予防処置の確認及び評価、代表者への報告 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境経営レポートの作成 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境活動の実績データ等の集計 ・環境経営システムの実施 ・環境経営方針の周知 ・関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境管理責任者への報告 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連法規の遵守状況の確認 ・文書・記録の管理
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3.環境経営方針

我々人類の生活する地球環境の温暖化は、現存する地球の生命体すべてにおいて将来にわたり環境保全上の

大きな支障となることは、環境基本法やエコアクション21の基本理念を学ぶ事により理解できることです。

よって、当社は環境保全を事業活動の重要課題と認識し、自然環境が豊富なこの信州長野の地を次の世代に

継承するべく、全社員が地球環境と地域社会の環境に配慮して継続的に改善して行くことを目指します。

1. 人と地球に優しい事業活動を行い、環境負荷の低減に努める。
2. 環境に関する法規制や地域との協定を遵守し業界上部団体の指針に基づき活動する。
3. 当社が行う環境活動は、以下の項目とする。
 - 1) 工場、事務所等の省電力への取り組み
 - 2) 生産活動に伴う廃棄物、排出物の削減及び再利用の取り組み
 - 3) 製品運搬等、車両の燃料使用量削減の取り組み
 - 4) 使用上水道の削減（工業用水の使用無し）
 - 5) グリーン調達推進と、製造工程での環境を配慮した取り組み
4. 本方針に基づき、環境目標を定め環境活動計画に沿って全社員が一丸となって活動し展開を図ると共に、定期的に見直しを実施する。
5. 本活動を全社員に周知徹底すると共に、本活動を示した環境経営レポートを作成し社外に公開する。

制定 平成17年10月1日

改定 令和 6年10月1日

ミヤマ精工株式会社

代表取締役社長 南澤文明

4.環境経営目標

- ①エネルギー投入量の目標値は前期実績に対して1%の削減を目標とする。
- ②水は製品の洗浄及び機械油が水溶性の為、水で薄めて使用する為、使用量が増加傾向であるので各箇所に節水のポスターなどを提示し、各自細目に止め、より一層の節水に心がけるように努力する。
- ③ガスは、加工品の洗浄で多量にお湯を使うので使用方法の徹底をする。
- ④廃棄物は当社の製造品が日々変わるため、精度の高い分別をし、リサイクル率を高め、無駄のない材料取りをするように生産管理との連携を組み、日々努力することを目標とする。共に、マニフェストの確認及び把握するように努力する。廃油に関しては油の成分表及び安全データシートを仕入れ先より提供してもらい、社員全員で把握できるようにする。それによりいっそうの環境への知識を深めるようにする。
- ⑤CO₂ 総排出量を全活動を通じての削減を推進する。
- ⑥環境教育は、講習会などに参加し、研修を受け、全社員に指導し、徹底する。

環境経営目標

項目	内容	基準年	中長期目標		
		第50期 (2023年度)	第51期 (2024年度)	第52期 (2025年度)	第53期 (2026年度)
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	電気	336,675	333,308	329,941	326,575
	自動車燃料	36,084	35,723	35,362	35,001
	ガス (LPG)	439	435	430	426
	合計	373,198	369,466	365,734	362,002
産業廃棄物 (t)		70	69	68.6	68
一般廃棄物 (t)		1.58	1.56	1.55	1.55
水(m ³)		688	681	674	667

5.環境経営計画

目標達成のための経営計画	
エネルギー	○電気 <ul style="list-style-type: none"> ・電灯の節電、OA機器の電力削減に心がける ・エア－漏れのチェックをする ・室温管理の担当がチェックし空調の無駄遣いを抑制する <ul style="list-style-type: none"> ・工場現場：夏季26℃ 冬季20℃（検査室 夏季22℃ 冬季20℃） ・事務所及び食堂 夏季28℃ 冬季20℃ ・エアコンのフィルター清掃など3カ月に1回点検を各部署において行う ・毎月1日、10日、15日はノー残業デーとしているので、一斉退社を徹底する
	○ガソリン、軽油 <ul style="list-style-type: none"> ・社用車の暖機運転の禁止 ・不必要なアイドリングの禁止 ・車両の定期的な点検及び省エネ運転の実行 ・社用車の配車の工夫
	○灯油 <ul style="list-style-type: none"> ・冬季の早朝などストーブ使用時の温度設定のチェック <ul style="list-style-type: none"> ・担当が空調と併せて管理を行う
	○ガス <ul style="list-style-type: none"> ・コンロ及び瞬間湯沸かし器の効率の良い使用方法を工夫する ・アルゴンガスについても効率の良い使用方法を工夫する
	○上水道 <ul style="list-style-type: none"> ・節水に努め環境マネジメントの向上を意識付けする ・切削油の管理を徹底し、入替え等が適切にできるようにする
廃棄物	○切粉（スチール、アルミ、ステンレス） <ul style="list-style-type: none"> ・各種金属の切粉が排出されるが、精度ある分別をしてリサイクルする
	○紙 <ul style="list-style-type: none"> ・普通紙、雑誌、新聞、ダンボール紙などの分別を徹底する
	○プラスチック <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品なのでゴミとして出さぬように注意して分別する
	○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶、スチール缶、ペットボトルは自動販売機設置業者の管理である為、業者に迷惑の掛かるような行為は慎むこと ・使用後のエンドミルは、ハイス、超硬、チップに分別し、リサイクルに回す
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当者は常に環境意識を持ち、担当に関わる研修会に積極的に参加する ・各担当者は学び得た知識を有意義に発揮し全社に教育及び指導する ・各社員エコアクション21の目標を提示し、努力を促す ・月初めの朝礼で再度各社員に節約の自覚を促す ・5S委員会を通し、他社の見学及び活動を社員に紹介し、環境意識を強める
グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品はグリーン化された商品を優先して購入する ・消耗品はリサイクル品またはリサイクル化される物を優先して購入する ・生産管理及び製造工程で素材のムダ、工程のムダ等を考え、環境を意識した製造方法を推進する

6.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果

6-1環境経営目標の実績・取組結果

【環境経営目標の実績】

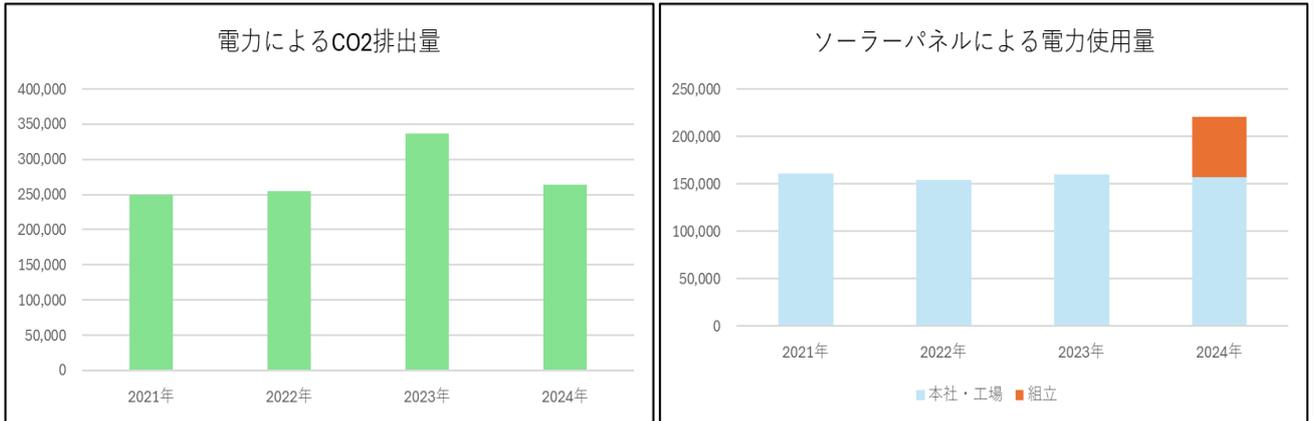
			第48期(2021年度)	第49期(2022年度)	第50期(2023年度)	第51期(2024年度)
電力によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	277,518	247,512	251,791	333,308
		実績	250,012	254,334	336,675	263,987
		評価	○	×	×	○
自動車燃料によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	48,375	42,153	39,947	35,723
		実績	42,578	40,351	36,948	34,295
		評価	○	○	○	○
ガス(LPG)(kg)によるCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	目標	550	525	527	435
		実績	530	532	439	521
		評価	○	×	○	×
上記CO ₂ 排出量合計	kg-CO ₂	目標	326,442	290,190	292,265	369,466
		実績	293,120	295,217	373,198	300,898
		評価	○	×	×	○
産業廃棄物	t	目標	71	67	80	69
		実績	67	81	70	79
		評価	○	×	○	×
一般廃棄物	t	目標	1.07	1.08	1.68	1.56
		実績	1.09	1.70	1.58	0.00
		評価	×	×	○	
水	l	目標	628	605	623	681
		実績	611	629	688	750
		評価	○	×	×	×

※購入電力の排出係数は、中部電力の2021年の0.388(kg-CO₂/kWh)及びソーラー・ジャパンの0(kg-CO₂/kWh)を使用。

※産業廃棄物には廃油も含まれ、再資源化されている量も含まれている値で示している。

6-1-1環境経営目標の取組結果及び次年度の取組

①電力によるCO2排出量について



取組結果：達成

今季から、組立工場のソーラーパネルも本格始動した。前期は組立工場において、1日中エアコン稼働させ、装置の温度管理を徹底しなければいけない案件があったことが影響し、数値が大きくなっていた。今期に関しては、必要最低限の電力で賄うことができたと思われる。また、日々無駄等のないエアコン等の使い方が徹底できた結果ではないかと思う。また、ソーラーパネルに関しても上手に運用できているのではないかとと思われる。

次年度の取組：引続き、無理無駄のない運用をしていく。

②自動車燃料によるCO2排出量



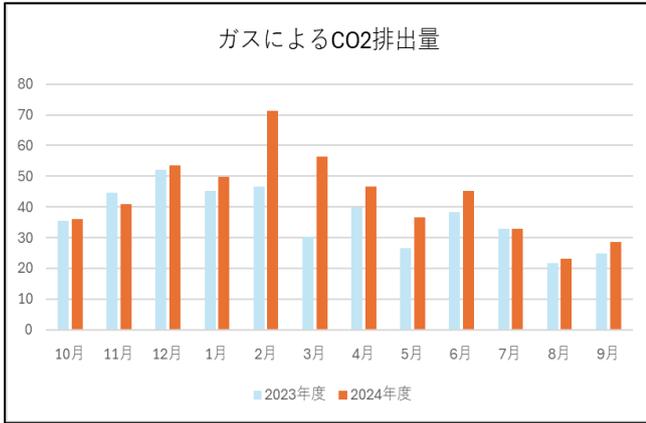
取組結果：達成

ムリ・ムダ・ムラのない行動の定着が継続できている。また、納品する際のルート工夫が出来ている。

次年度の取組：引続き、ムリ等のない運転を心がけていく。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2023年度	1,480	1,291	1,564	1,528	1,166	1,684	1,379	1,546	1,186	1,645	1,576	1,707
2024年度	1,324	1,110	1,061	1,100	1,047	1,276	1,386	1,160	1,111	1,435	1,064	1,046

③ガス（LPG）によるCO2排出量



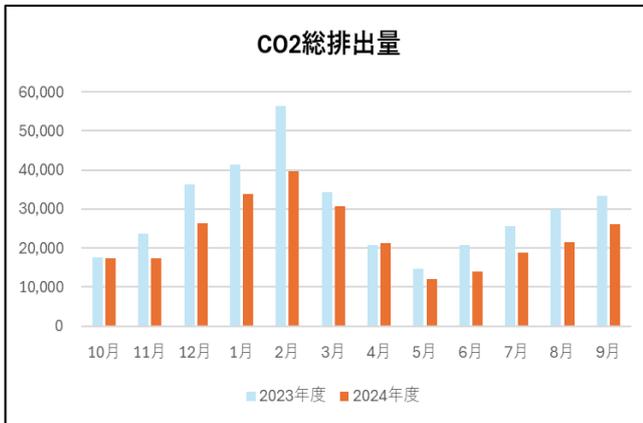
取組結果：未達成

今期は、温水を用いた洗浄工程が必要な製品が例年より多かったのが影響していると思われる。

次年度の取組：引続き、無駄な使い方をしないようにしていく。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2023年度	35.4	44.7	52.2	45.3	46.6	30.4	39.8	26.7	38.4	33	21.8	24.8
2024年度	36	41	53.4	49.8	71.4	56.5	46.6	36.6	45.3	33	23.1	28.5

◆CO2総排出量



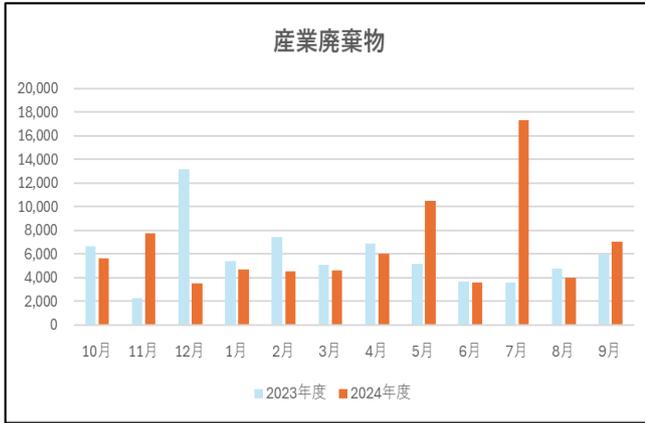
取組結果：達成

全ての月に関して削減が出来ている結果を得ることができた。売上の減少も見られたがその影響以上の削減がみられていると思われる。

次年度の取組：引続き、ムリ・ムダ・ムラの無い行動を続ける。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2023年度	17,616	23,669	36,326	41,406	56,390	34,232	20,842	14,792	20,667	25,715	29,939	33,271
2024年度	17,271	17,471	26,205	33,726	39,734	30,567	21,236	12,051	14,056	18,793	21,432	26,086

④産業廃棄物



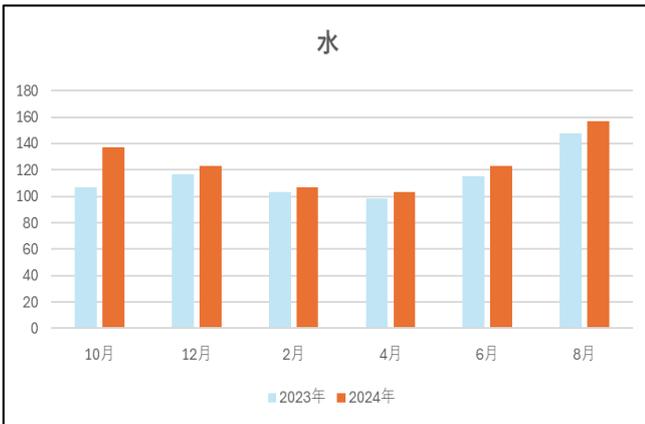
取組結果：未達成

廃油の処理等、必要な廃油処理等ではあるが未達成という結果になってしまった。しかし、リサイクルできるものはしっかりし、無駄のない材料取り及び不良の削減等はしっかりできていると思う。

次年度の取組：引続き、無駄のないように活動していく。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2023年度	6,655	2,290	13,135	5,400	7,460	5,105	6,860	5,170	3,695	3,570	4,790	5,990
2024年度	5,600	7,760	3,550	4,660	4,540	4,600	6,020	10,470	3,590	17,290	4,010	7,080

⑤水



取組結果：未達成

少し、節水に関してマンネリ化がみられてきていると思われる。

次年度の取組：再度、節水の徹底等呼び掛けていく。

	10月	12月	2月	4月	6月	8月
2023年度	107	117	103	98	115	148
2024年度	137	123	107	103	123	157

6-2環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の取組

環境経営計画		取組の結果	評価	次年度の取組
エ ネ ル ギ ー	○電気			
	・電灯の節電、OA機器の電力削減に心がける	昼休憩中等消灯できていた	◎	継続していく
	・エアー漏れのチェックをする	定期的にチェックしていた	◎	継続していく
	・工場現場：夏季26℃ 冬季20℃ (検査室 夏季22℃ 冬季20℃)	設定の達成は出来た	◎	継続していく
	・事務所及び食堂 夏季28℃ 冬季20℃	事務所PCからの熱が多く中々設定どおりには出来ていなかった	◎	社員の体調等も考慮し、適温を設定していく
	・エアコンのフィルター清掃など3カ月に1回点検を各部署において行う	行えた	◎	継続していく
	・毎月1日、10日、15日はノー残業デーとしているので、一斉退社を徹底	ほぼ出来ていた	○	一斉退社できるように強化していく
	○ガソリン、軽油			
	・社用車の暖機運転の禁止	暖機運転していなかった	◎	継続していく
	・不必要なアイドリングの禁止	出来た	◎	
	・車両の定期的な点検及び省エネ運転の実行	点検等しっかりできた	◎	
	・社用車の配車の工夫	徹底出来ていた	◎	
○灯油				
・冬季の早朝などストーブ使用時の温度設定のチェック ・担当が空調と併せて管理を行う	管理出来た	◎	継続していく	
○ガス				
・コンロ及び瞬間湯沸かし器の効率の良い使用方法を工夫する	工夫できた	◎	継続していく	
・アルゴンガスについても効率の良い使用方法を工夫する	使用頻度が少なかった	◎	継続していく	
水	○上水道			
	・節水に努め環境マネジメントの向上を意識付けする	節水に努められた	◎	継続していく
	・切削油の管理を徹底し、入替え等が適切にできるようにする	管理の徹底ができた	◎	継続していく

	環境経営計画	取組の結果	評価	次年度の取組
廃棄物	○切粉（スチール、アルミ、ステンレス） ・各種金属の切粉が排出されるが、精度ある分別をしてリサイクルする	リサイクル出来た	◎	継続していく
	○紙 ・普通紙、雑誌、新聞、ダンボール紙などの分別を徹底する	分別の徹底が出来た	◎	継続していく
	○プラスチック ・リサイクル品なのでゴミとして出さぬように注意して分別する	リサイクル出来た	◎	継続していく
	○その他 ・アルミ缶、スチール缶、ペットボトルは自動販売機設置業者の管理である為、業者に迷惑の掛かるような行為は慎むこと	業者の方に迷惑の掛からないように分別出来ていた	◎	継続していく
	・使用後のエンドミルは、ハイス、超硬、チップに分別し、リサイクルに回す	分別し、リサイクル出来た	◎	継続していく
環境教育	・各担当者は常に環境意識を持ち、担当に関わる研修会に積極的に参加する	開催できなかった	○	環境意識を継続していく
	・各担当者は学び得た知識を有意義に発揮し全社に教育及び指導する	出来ていた	○	引続き教育及び指導していく
	・各社員エコアクション21の目標を提示し、努力を促す	目標を提示し、達成に向けて努力が出来ていた	◎	目標を提示し、達成に向けて活動した
	・月初めの朝礼で再度各社員に節約の自覚を促す	促せた	○	継続していく
	・5S委員会を通し、他社の見学及び活動を社員に紹介し、環境意識を強める	感染症予防の為、他社の見学は出来なかった	○	部署毎に情報共有することを大切にしていきたい
グリーン化（グリーン調達）	・購入品はグリーン化された商品を優先して購入する	可能な範囲で購入出来ていた	◎	継続していく
	・消耗品はリサイクル品またはリサイクル化される物を優先して購入	可能な範囲で出来ていた	○	継続していく
	・生産管理及び製造工程で素材のムダ、工程のムダ等を考え、環境を意識した製造方法を推進する	ムダのないように工夫できた	◎	継続していく

7.実績と次年度目標

						次年度目標
内容	項目	第48期(2021年度)	第49期(2022年度)	第50期(2023年度)	第51期(2024年度)	第52期(2025年度)
電力による CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	目標	277,518	247,512	251,791	333,308	261,347
	実績	250,012	254,334	336,675	263,987	/
	評価	○	×	×	○	
自動車燃料による CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	目標	47,983	42,152	39,947	35,723	33,952
	実績	42,578	40,351	36,084	34,295	/
	評価	○	○	○	○	
ガス(LPG)による CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	目標	550	525	527	435	516
	実績	530	532	439	521	/
	評価	○	×	×	×	
上記CO ₂ 排出量 合計 (kg-CO ₂)	目標	326,051	290,189	292,265	369,466	297,889
	実績	293,120	295,217	373,198	300,898	/
	評価	○	×	×	○	
産業廃棄物 (t)	目標	70.6	66.8	80	69	78
	実績	67.4	80.6	70.1	79	/
	評価	○	×	○	×	
一般廃棄物 (t)	目標	1.07	1.08	1.68	1.56	1.56
	実績	1.09	1.7	1.58		/
	評価	×	×	○		
水 (l)	目標	628	605	623	681	749
	実績	611	629	688	750	/
	評価	○	×	×	×	

8.環境関連法規等の遵守状況の確認、評価の結果並びに違反、訴訟の有無

(1)当社に適用される環境関連法規

法令等の名称	項目	文書・記録	確認
環境基本法	事業者の責務		○
循環型社会形成推進基本法	事業者の責務		○
グリーン購入法	事業者の責務		○
廃棄物処理法	廃棄物運搬・処分の委託契約	収集運搬及び処分業者の許可証の確認	○
	マニフェストの交付	交付義務	○
		回収・照合(発行後B2・D票90日、E票180日以内)	○
		A票・B2・D・E票 5年間保存	○
		上記各票の送付期限日までに送付されない場合は適切な処置を講じ30日以内に県知事に報告	○
	管理票交付状況の報告	○	
騒音・振動規制法	指定地域内での特定建設作業	設置または変更は30日前に市町村長に届け出	○
特定家庭用機器再商品化法	排出する場合、業者に適切に引き渡し		○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の所有者の義務		○
労働安全衛生法	従業員の労働安全と健康保持		○
消防法・火災予防例	指定数量未満の危険物の貯蔵・取扱い		○
フロン排出抑制法	機器所有者によるフロン漏洩点検	3カ月に1回以上簡易点検点検・整備の記録	○

○遵守状況の確認及び評価の結果

- ・担当者が中心となり遵守状況についてチェックを行っている。
- ・消防法等に関しては、長野県パトロールと委託契約しており、定期的に点検及び確認を行っている。
- ・電機に関しては、外部に委託し、月1回の点検を行っている
- ・エアコンフィルター及び室外機は、3カ月に1回担当者が確認し、点検表にて管理している。
- ・問題及び関係当局より違反の指摘は過去3年間うけておりません。

○違反、訴訟の有無

- ・法規の違反及び訴訟等は、創業から現在まで1件もなく、近隣住民からのクレームなども1件もない。そして、毎年1年に1回地元の区長さんに会い、問題があるようなら連絡を頂ける関係を築いている。

また、環境レポートは誰でも見れるようにしてある。

9.教育・訓練実施結果及び概要

1) 10月1日（朝礼にて）

- 概要 ・ 第50期の活動報告及び反省
・ 第51期目標および今後の方針

○担当 環境管理責任者 取締役総務部長 南澤哲子

○結果 エネルギー投入量1%の削減を目標に行ってきた結果、一人一人の自覚も芽生え少しずつではあるが、削減できたと感じられる。
仕事量に左右されることが多分にあるが、一人一人の目標を掲げ、51期も更なる削減を目指したい。

2) 消防訓練は2023年12月8日に実施

消防署へ通報訓練及び消火器具をお借りし、消火器の使い方など再確認した。
毎年避難訓練は実施していきたい。

10.代表者による全体評価と見直し・指示

2024年12月10日

代表取締役社長 南澤文明

本年度はコロナ過が明け景気回復を期待したが、中国経済の衰退及びウクライナとロシアの紛争と中東各地の情勢不安の影響で世界経済が不安定となり景気回復が進まなかった。また、当社のメインの取引先の半導体業界も在庫調整と自動車のEV化の鈍化により伸び悩んでいた為厳しい年度となった。そんな状況ではあったが新規取引先ができた事や、半導体以外の業界の取引先が堅調であった為、業績は前期並みに収まる事となった。

EA21の結果として生產品目の内容による影響も考えられるが総CO2排出量は目標に対し大幅に削減できた年度となった。今年度は猛暑によりエアコンの使用状況の影響が心配されたが、組立工場での終日使用が抑制された事が大きな要因で削減できた。製作製品でエアコンの使用状況は都度変化するが、エアコンの使用環境の最適化を見極めCO2削減に努めるべく実行する。

1. エネルギー投入量

電気においてはエアコンの適切な使用が出来た事により削減できた。自動車の使用においても無駄の無い使用により削減できた。ガスにおいては洗浄工程で温水を使用する為、洗浄工程がある製品が増えたため目標は達成できなかった。多品種少量の製品を扱い都度エネルギー使用量は変化するが、適切な使用を常に考えながら使用しCO2削減に努める。なお、電気使用量の約3割はソーラー発電による電気でありCO2削減に大きく効果が得られている。

2. 水資源使用量

本年度は洗浄での使用が増えた事と、夏の猛暑対策で工場の屋根の焼け対策として屋根に水を撒くために使用した影響があり、残念ながら目標未達となった。次年度は適切な使用を意識して削減に努める。

3. 廃棄物（産業廃棄物及び一般廃棄物）

目標達成は出来なかった。製品製作の内容により切粉が増えた事が要因である。鋳物の粗形状から切削加工していた製品が、無垢の素材から削り出し加工に変更になった事によるものである。鋳物は巣がある場合があり、加工後に巣が確認できる事もあるため、歩留まりが悪く再制作が頻繁にあり、削り出し加工に変更になった為に増加した結果となった。

4. 環境教育

EA21及びSDGsを主体に、5S・勉強会・チャレンジ20の夫々の活動にエコ意識をもって活動し、結果としてCO2排出量の削減になる様に活動する。

5. グリーン化

E CO商品の積極的な購入に努めると共に、廃棄物の削減と再利用率の向上に努める。

6. 総括

CO₂削減は達成となり良い結果が得られた。しかし依然として世界的にはCO₂排出量は増えており心配するところである。次年度も活動の停滞が無いように努める。

新規の取引先が出来たり加工方法の変更により、以前とは違った状況が発生する要因が増えてきているが、都度ムダない最善の状態の仕事に取り組むように努める。

7. 指示

地球温暖化が進行する中で、自身が生活する地域でも異常な気象を体感していることを踏まえ、未来ある子供達の為にも常に環境意識を高く持って仕事に従事する。

：
：
：